

委託事業実施内容報告書

平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 特定非営利活動法人 市民社会研究所

1 事業の趣旨・目的

四日市市にはブラジル人を中心とする集住地区があり、日本語を使わなくとも生活できることから日本語の修得が進まない環境にある。このため四日市市と地域が共同で外国人小・中学生のための日本語教室等を行っているが、高校進学後の青少年の学習・就職を支援する日本語教室は存在していない。

そのため学校で十分な日本語指導が受けられない、学習が困難となっている青少年が日本語の学習意欲を高め、さらに学校の授業についていけるように、高校受験や高校での授業に必要な日本語力を獲得できるように指導する。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
【第1回】 5月15日(土) 14:00~16:00	四日市市 なやづら	永田 真理 朝妻 泰孝 和田 明子 坂口 亘弘 藤川 義幸 金 憲裕 小林 範子 松井 真理子	・講座内容の検討	・企画委員の紹介 ・企画内容検討 (目的・対象者・日時・会場・講師・場所等) ・広報について (チラシ配布先、HP、市広報) ・今後の予定の確認
【第2回】 9月4日(土) 17:00~18:30	四日市市な やづら	永田 真理 朝妻 泰孝 和田 明子 坂口 亘弘 藤川 義幸 金 憲裕 小林 範子 松井 真理子	・前期講座の報告 ・後期講座の検討	・前期講座の報告 (受講生の状況、内容) ・後期講座内容の検討

【第3回】 1月29日(土) 16:30~18:00	四日市市 なやプザ*	永田 真理 朝妻 泰孝 和田 明子 坂口 亘弘 藤川 義幸 金 憲裕 小林 範子 松井 真理子	・後期講座の報告 ・次年度について	・後期講座の報告 (受講生の状況、内容) ・アンケート報告 ・成果と課題
----------------------------------	---------------	--	----------------------	---

【写真】



3 日本語教室の開催について

日本語教室の名称 外国人青少年のための日本語教室

開催場所 じばさん三重

学習目標

- ・ 学習が困難となっている青少年の日本語の学習意欲を高める
- ・ 高校受験や高校での授業に必要な日本語力の獲得
- ・ 受験に必要な作文の書き方、面接のマナーを指導

使用した教材・リソース

- ・ 新日本語の基礎 漢字練習帳
- ・ 4コマ漫画
- ・ 生教材(情報誌等)

基本的には学習者の書いた作文・ディスカッションの内容が教材

受講者の募集方法

募集チラシをポルトガル語、スペイン語、英語、中国語の4言語(日本語併記)に翻訳し、配布およびホームページに掲載。

募集用チラシ配布先

- ・ 外国人生徒在籍学校(市立中学校 22校、県立高校8校)
- ・ ブラジル人学校 ・地区市民センター(24ヶ所)
- ・ 四日市国際交流センター ・三重県国際交流財団
- ・ 四日市市内の日本語サークル ・教会
- ・ ブラジル物産店

ホームページ掲載

- ・ NPO 法人市民社会研究所 ・三重県国際交流財団

四日市市広報(ポルトガル語版)に掲載

外国人向け FM ラジオ(アローよっかいち)で講座案内を放送

四日市教育委員会主催「進学ガイダンス 学校へ行こう」でチラシ配布(11/21)

受講者の総数 (前期36人) + (後期35人) - (継続受講30人) = 計41人
後期新規申込5人

出身・国籍別内訳

	前 期	後 期
ブラジル	26人	25人
ペルー	5人	3人
中 国	2人	3人
タ イ	1人	1人
ウクライナ	1人	1人
フィリピン	1人	1人
ドイツ	-	1人
合 計	36人	35人

開催時間数(回数) 60 時間 (全 20 回)

日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語(人)	教授者・補助者数	内容
	【前期】 7月20日 (火)	3H	22人	ブラジル×13人 ペルー×4人 中国×2人 タイ×1人 ウクライナ×1人 フィリピン×1人	教授者 5人	教室内の注意事項 緊急連絡先の確認 自己紹介
	7月24日 (土)	3H	7人	ブラジル×2人 ペルー×2人 中国×1人 タイ×1人 ウクライナ×1人	教授者 5人	テーマ「私の国について」 作文、発表
	7月31日 (土)	3H	27人	ブラジル×21人 ペルー×2人 中国×1人 タイ×1人 ウクライナ×1人 フィリピン×1人	教授者 5人	テーマ「私の学校(仕事)について」 作文、発表
	8月3日 (火)	3H	16人	ブラジル×11人 ペルー×2人 中国×1人 タイ×1人 ウクライナ×1人	教授者 5人	形容詞 テーマ「一番楽しかったこと」 作文、発表
	8月7日 (土)	3H	22人	ブラジル×17人 ペルー×2人 中国×1人 タイ×1人 ウクライナ×1人	教授者 5人	テーマ「絵 ~ を見て、結末 を考え、 ストーリーを完成させる」 作文、発表
	8月10日 (火)	3H	13人	ブラジル×9人 中国×2人 タイ×1人 ウクライナ×1人	教授者 5人	原稿用紙の書き方、漢字練習 テーマ「海と山どちらが好きですか？」 作文、発表

	8月17日 (火)	3 H	12 人	ブラジル×7人 ペルー ×2人 中国 ×1人 タイ ×1人 ウラ付 ×1人	教授者 5人	漢字練習(プリント使用) テーマ「年をとっても仕事をしたいか？」 作文、発表
	8月21日 (土)	3 H	23 人	ブラジル×17人 ペルー ×2人 中国 ×1人 タイ ×1人 ウラ付 ×1人 フィリピン×1人	教授者 5人	テーマ「こんなものがあつたらいいな」 作文、発表
	8月24日 (火)	3 H	11 人	ブラジル×6人 ペルー ×2人 中国 ×1人 タイ ×1人 ウラ付 ×1人	教授者 5人	テーマ「優先席での携帯」(プリント)使用 優先席について説明 プリントを音読 漢字の読み、発音の訂正 作文、発表
	8月28日 (土)	3 H	17 人	ブラジル×13人 ペルー ×1人 中国 ×1人 タイ ×1人 ウラ付 ×1人	教授者 5人	導入「かばんの中に何がはいっていますか？」 実際かばんの中身を出して説明 作文、発表
	8月31日 (火)	3 H	5人	ブラジル×2人 ペルー ×1人 中国 ×1人 ウラ付 ×1人	教授者 5人	テーマ「私は生まれかわったら(男/女)になりたいです」 作文、発表
	9月4日 (土)	3 H	14 人	ブラジル×9人 ペルー ×2人 中国 ×1人 タイ ×1人 ウラ付 ×1人	教授者 5人	漢字の練習 前回の作文の訂正 別フロアで開催中の「大学展」を見学
	【後期】 12月4日 (土)	3 H	16 人	ブラジル×9人 ペルー ×2人 中国 ×2人 タイ ×1人 ウラ付 ×1人 ドイツ×1人	教授者 5人	教室内での注意事項(後期) テーマ「あなたの国のクリスマスは？」 作文、発表

	12月11日 (土)	3 H	18人	ブラジル×12人 ペルー ×1人 中国 ×2人 ウクライナ ×1人 フィリピン×1人 ドイツ×1人	教授者 5人	前回の復習 あげます・もらいます 形容詞の否定形 漢字練習
	12月18日 (土)	3 H	15人	ブラジル×7人 ペルー ×2人 中国 ×2人 タイ ×1人 ウクライナ ×1人 フィリピン×1人 ドイツ×1人	教授者 5人	漢字練習 テーマ「制服があったほうがいいのか？」 作文、発表
	12月28日 (火)	3 H	9人	ブラジル×4人 ペルー ×1人 中国 ×1人 タイ ×1人 フィリピン×1人 ドイツ×1人	教授者 5人	前回の作文の訂正 テーマ「イタリア」 1人1文ずつ書き、ストーリーを作っていく
	1月8日 (土)	3 H	17人	ブラジル×11人 ペルー ×2人 中国 ×1人 タイ ×1人 フィリピン×1人 ドイツ×1人	教授者 5人	導入「小・中・高校・大学の違い」 テーマ「学校はなにをやる場所？」 折り紙で「うさぎ」を作る
	1月15日 (土)	3 H	13人	ブラジル×8人 ペルー ×1人 中国 ×2人 タイ ×1人 フィリピン×1人	教授者 5人	前回の復習 作文発表 面接の基本マナー (入室、立ち方、座り方、返事)
	1月22日 (土)	3 H	15人	ブラジル×10人 ペルー ×2人 中国 ×1人 タイ ×1人 フィリピン×1人	教授者 5人	テーマ「大人と子どもはなにが違いますか？」 作文、発表

	1月29日 (土)	3 H	12 人	ブラジル×8人 ペルー ×2人 中国 ×1人 タイ ×1人	教授者 5人	前回の作文の訂正 訂正した作文の発表 修了式
--	--------------	-----	---------	--	-----------	------------------------------

講座の進め方

- 1、テーマについてディスカッション（聞く・話す）
- 2、自分の考えを作文（書く）
- 3、書いた作文を発表（読む）
- 4、作文を提出 講師が添削
- 5、次回、作文返却 間違いの多い文法や、漢字の書き方などを説明

特徴的な授業風景(2～3回分)



自分の書いた作文を発表



授業風景



作文指導

活用した日系人等(日本語を母語としない)の名簿

氏名	母語(国籍)	来日年(日)数	参加回数	当該教室での役割
		なし		

支援者の名簿(以外)

氏名	所属	専門分野及び日本語教育に関する資格	参加回数	当該教室での役割
和田 明子	アームズ日本語学校 教務主任	日本語教育能力検定 試験合格	20回	教授者
石川 節子	西笹川中学 非常勤講師	日本語教育能力検定 試験合格	20回	教授者
曽根 由香里	鈴鹿国際大学 非常勤講師	日本語教育能力検定 試験合格	20回	教授者
渡辺 富紀子	トライント外語専門学校 非常勤講師	日本語教育能力検定 試験合格	20回	教授者
谷垣 映子	鈴鹿短期大学 非常勤講師	日本語教育能力検定 試験合格	20回	教授者

4 事業に対する評価について

当初の学習目標の達成状況

日本語の習得が不十分であるために、学校へ行かなくなったり、進学をあきらめる外国人青少年に、週1回ではあるが継続的な学習機会を与えることができた。

なかには日本の学校への進学を現実的に考える生徒もあった。

また、グループでディスカッションしたり、作文を書くことによって日本語学習意欲が高まった。

学習者の習得状況

最初は、日本語レベルの違いから、ディスカッションで積極的に話す生徒と、話したくてもなかなか言葉にならずに黙り込んでしまう生徒がいたが、時間が経つにつれて少しずつ日本語で自分の意見を言えるようになった。

また作文も、はじめは2,3行ぐらいしか書けなかった生徒も、辞書を使いながらも原稿用紙1枚近く書けるようになった。

書くことによって、会話練習だけではあいまいだった文末表現や助詞の確認ができた。

日本語教室設置運営の効果, 成果

マンツーマン指導のボランティア教室が多い中で、グループでディスカッションしながら、「作文」を書く作業を柱とした学習ができたことは意味がある。また、書くことにより、話し言葉と書

き言葉の違いを理解し、面接や発表などでの改まった話し方にも応用ができるようになった。
地域の関係者との連携による効果、成果等

外国人集住地区の自治会関係者と連携し、意見交換することにより、地区や小中学校の取り組み方や課題などを具体的に聞くことができた。

改善点、今後の課題について(具体的に記述する。)

a. 現状

学習チャンスがない人たちに学習の場を提供したいとの思いから教室を開講し、外国人生徒が在籍する学校や日本語サークル、教会や物産店などを通じて広報したが、本当に学習が必要な「学校へ行っていない人たち」に広報することが難しい。

日本語習得が不十分なために進学や就職などに希望が持てず、将来が描けない状態にある青少年が少なくない。

b. 今後の課題

中高生を対象としていたので、夏休みと冬休みの期間に教室を開講したが、期間があくことにより学習意欲の低下、さまざまな事情により生徒と連絡が取れなくなるなど、期間をあけずに講座開催が望ましい。

進学のための進路指導を受けたことがなく「進学したいけど、どうしたらいいのかわからない」と進学をあきらめている生徒がいる一方で、親も日本の学校制度について理解できているとはいえ、外国人生徒および親も含めた進学ガイダンス等、行政や教育委員会による支援が必要。

c. 今後の活動予定、展望

今後も学習機会のない人たちに学習の場を提供する必要があり、受講生からも「続けて勉強したい」との声も多い。また就労の現場においても、日常会話だけでなく、「議論する」「発表する」「書く」などの日本語力が必要になっており、日本語のレベルアップを望む社会人や留学生などが増えているため、今後は進学希望者だけでなく、社会人にも枠を広げて、来年度以降も教室を継続する予定。

その他参考資料

【受講生に対するアンケート】(原文のまま掲載)

- ・先生はとてもやさしいです。みなさんおもしろいです。勉強はむずかしいけど楽しいです。
- ・楽しいです。でも作文が多いです。漢字がもっと学びたいです。
- ・文字、会話、書き方、文法をもっと勉強したかった。
- ・いつも日本語の勉強のところで先生と学生だけ。くらすで一緒に日本語勉強ははじめていいけんだったから、本当にいいと思う。
- ・単語、文法、動詞、役に立つこと勉強することができた。この講座で新しい友達ができ、他の国についても勉強できて、本当によかった。
- ・文法をもっと勉強したい。文法がわかればもっと勉強しやすい。
- ・先生たちはやさしいから勉強も楽しかったです。いろんなものを学んですごうれしいです。これからもがんばります！

「日本語でできれば生活楽しい」

読み書き講座 確かな手応え

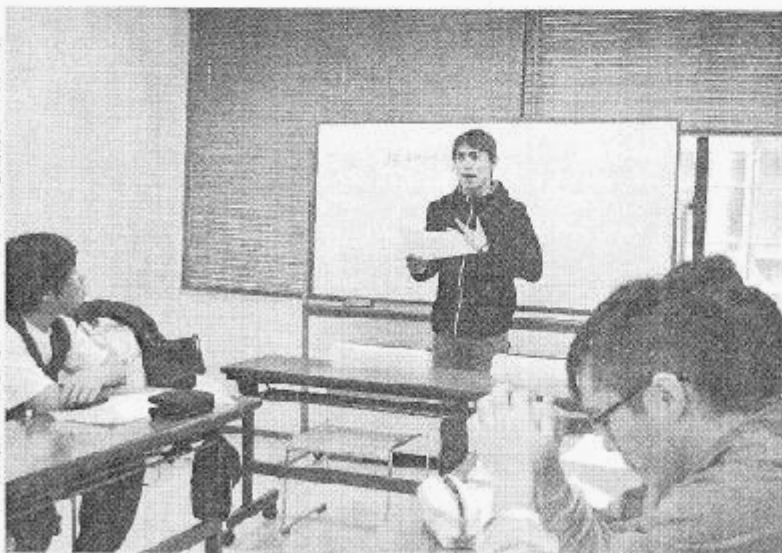
【四日市】「高校（大学）へ行こう」を目的に四日市市で開催された外国人対象の日本語教室の全二十回講座が、このほど終了した。同市の「NPO法人「市民社会研究所」（代表・松井真理子四日市大学教授）が文化庁の日本語教育事業を受託して開催。日常会話だけでなく、受験などにも役立つよう、「読み・書き」に重点を置いて指導した。中学生から社会人までの受講生らは、「もっと日本語を勉強したい」と意欲を見せた。

昨年の夏休み中に前期十回、ブラジルやペルーを回る、冬休みを挟む十二回、中心に中国、フィリピン、一月に後期十回を設けタイ、ドイツ人などの中学生、ブラジル人学校や市教生や高校生、社会人まで三妻などを通じて募集したと、十五人の応募があった。家

四日市のNPO

進学も視野、外国人励む

庭の事情などで途中で諦め、学校は何をするところを得ない人もいたが、もう一人と子どもの違いは、毎回十人から二十人が参加して、講師は日本語教師の資格を持つ五人が担当。授業で



考えを日本語の作文にまとめて皆の前で発表する受講者。四日市市安島のじほさん三重で

庭の事情などで講師らが添削やマンツーマンで教えた後、皆の前で作文を発表。そういった一連の流れを繰り返した。

日本語習熟方には個人差があり、最初は自分の名前も書けなかった受講生もいたが、最終回では原稿用紙一枚に自分の思いが書けるくらい上達したという。日本社会での面接のマナーも教え、受講をきっかけに私立の大学に合格したり就職を決めた人も。同研究所の教室担当小林典子さんは、「日常会話の教室は多くあるが、書く、読むことを重点にした講座は少ない。今回の効果はみられたと思う」と手応えを感じている。

来日七年のペルー出身のドレス・セルジオさんは、「一鈴鹿市矢橋」は、将来レストランを聞く夢がある。「きれいな言葉で話せるようになった。日本語ができれば生活も楽しくなり友達もできた」と言う。同研究所松井代表は、「ニーズがあることは分かった。継続することが大切なので、今後の受け皿を検討していきたい」と話していた。（安藤寛代）